

## 学校運営協議会議事録

校名	府立豊島高等学校
校長名	富山 一紀

開催日時	令和7年11月21日(金) 14:00 ~ 16:00
開催場所	府立豊島高等学校 校長室
出席者(委員)	白木原会長、開副会長、辻下委員、大石委員、東前委員、沖委員
出席者(学校)	富山校長、相澤教頭、森事務長、池尾首席、塩見首席、八木教諭
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度学校経営計画、学校教育自己診断項目
備考	

議題等(次第順)
1 校長挨拶
2 会長挨拶
3 授業見学
4 授業見学について協議
5 学校の取組状況について
協議内容・承認事項等(意見の概要)
4 授業見学に対する委員からの意見・感想
中学校関係者からの感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が全体として真面目に、熱心に授業に取り組んでいる様子が印象的であった。</li> <li>・教員はプレゼンテーションソフト等のスライドを活用し、視覚的に分かりやすい教材提示を行っていた。黒板に向かい続けるのではなく、常に生徒の方を向き、注意を向いている姿が見られた。</li> <li>・グループワークやペアでの話し合いなど、「対話的な学び」を随所に取り入れ、学力差のある生徒も置き去りにならないよう工夫している点が高く評価された。</li> <li>・1年生では学力の幅が大きいと推測されるが、中学校での取組と同様に、自己理解・他者理解や対話的な活動を高校でも丁寧に行っていただいていると感じた。</li> <li>・女子生徒が比較的多く、大人びた印象を受けた一方、男子生徒は素朴で、男女が仲良く穏やかな雰囲気で学んでいる様子が見られた。</li> </ul>
専攻スポーツに関する意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻スポーツの授業を初めて見学し、非常にレベルの高い指導・活動であると感じたとの意見があった。「授業として本格的なバレー・ボールの練習や対戦ができる」という点は、バレー・ボールに打ち込みたい生徒にとって大きな魅力となり得るため、入学希望者・中学生や保護者に向けて、もっと分かりやすく情報発信してほしいとの要望が出された。</li> <li>・勉強と部活動(スポーツ)を両立したい中学生にとって、「授業でスポーツに本格的に取り組める」ことは、本校の大きなアピールポイントになり得るとの意見があった。</li> </ul>
授業形態・教科書の扱い等についての所感
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回見学した授業では、プリントやスライド中心で教科書をあまり用いない授業形態が多く見られた一方、公民の授業では教科書を併用した板書中心の授業が行われており、そのクラスでは特に生徒の集中力が高い印象もあったという指摘があった。</li> <li>・数学の授業では、一部の生徒が理解に追いつかず、隣の生徒の様子をうかがいながら受けているように見え、教員のご苦労がうかがえるとの意見があった。</li> </ul>
規律と「対話的な学び」のバランスについて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立高校等と比較して、「授業中に後ろを向く生徒がいる」「教科書を床に置いている」など、規律の面で気になる場面もあったとの意見が出された。</li> <li>・これに対し学校側からは、現在の授業では、生徒同士の教え合いや相談、対話を重視する流れがあり、一律に「静かに前を向くこと」のみを求める指導からは変化してきていること。もちろん、聞くべき場面では静かに前を向いて聞くよう指導しており、場面に応じてメリハリをつけることを意識していることなどの説明があった。</li> <li>・委員からは、スポーツの授業ではあいさつや集合が徹底され、規律が明確に保たれている様子が見られたことから、こうした「メリハリのある指導」を、学習場面にも上手くつなげていけると良いとの意見が出された。</li> <li>・社会に出た際に求められる「けじめ」と、学校での「対話的な学び」とのギャップが大きくなりすぎないよう、今後も意識した指導が必要ではないかとの指摘があった。</li> </ul>
ICT機器・プロジェクター活用に関する所感
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクターを活用することで、板書の時間を短縮し、その分対話や説明に時間を見てている授業が多く見られた。スライドを提示しながら、必要な事項は掲示物として黒板周辺に残すなど、「残したい情報」と「流してよい情報」を整理しながら授業を構成している工夫が見られた。</li> <li>・英語科では「話す英語」を重視し、ペア・グループでの活動時間を確保するため、従来の「板書→ノート写し」中心の授業から大きく変わってきたとの共有があつた。</li> </ul>

## 5 学校の取組状況について(報告)

### (1)進路指導・学習面の取組(首席教諭より)

#### 大学見学バスター:

進路の早期方向づけを目的として、昨年度から7月に「大学見学バスター」を実施している。オープンキャンパスに行きづらい生徒にも「大学の雰囲気」を体感させ、漠然と専門学校を考えている生徒の意識変容につなげることをねらいとしている。参加者アンケートでは「行ってよかった」という声が多く、満足度の高い取組であった。

#### オープンキャンパスガイダンス:

2年生対象に、夏前に大学・専門学校の担当者を招き、オープンキャンパスの見方・注目すべきポイントについて説明を受ける「オープンキャンパスガイダンス」を実施した。夏休み中、生徒は実際にオープンキャンパスに参加し、得た視点をもとに進路研究を進めている。

#### 進路ガイダンス:

3年生については、5月末に希望するほぼ全ての学校の担当者に来校いただき、

場合によっては1対1に近い形で説明を受ける機会を設けた。これにより、志望校を再検討する生徒も一定数おり、広い視野での進路選択につながっている。

#### 探究の時間(総合的な探究の時間)の取組:

教育産業が提供する探究教材を活用し、学年ごとに段階的な探究活動を実施している。

#### 1年生:

自己理解・他者理解を深めるワークに取り組んだ後、各自が興味を持ったニュース記事を選択。記事について自分の意見を整理し、反対意見や異なる立場も想定しながら、主張を説得力あるものにする練習を行っている。

#### 2年生:

1学期はグループで地域の課題をテーマに設定し、役割分担をして調査・最終発表を行った。2学期からは予定を一部変更し、個人探究を開始している。前日までに、各自の課題設定が概ね完了したとの報告があった。

#### 3年生:

1学期前半は「進路探究」として志望理由書の作成に取り組んだ。後半は個人探究を開始し、12月実施予定の発表会に向か、スライド作成・発表原稿作成を進めている。

#### 学習支援企画(勉強合宿等)

定期考査直前の土曜日に「One Day 勉強合宿」を実施。

各自課題を持参し、8時30分～16時30分まで自習形式で学習する。私語等は一切なく、静かな環境で学習に集中する取組である。参加者は回を追うごとに増加し、最近では70～90名程度が参加している。

#### 夏休みには2泊3日の「勉強合宿」を実施

今年度は全学年あわせて47名が参加し、大半が3年生であった。学習・食事・入浴・睡眠以外の時間はほぼ全て勉強に充てるハードな内容であるが、参加生徒は大きな達成感と自信を得ており、終了後の表情の変化が顕著であった。

#### 英検(英語検定)の準会場実施

本校を準会場として英検を実施している。今年度は、準2級:29名受験／8名合格

2級 :3年生を中心に39名受験／9名合格などの結果が報告された

#### (2)学校行事・生徒会行事等の取組(担当教員より)

##### 文化祭

基本構成は例年通り

1年生:大型制作 2年生:喫茶店・模擬店 3年生:劇  
の形で実施した。

今年度の新たな取組として、2年生の飲食店・喫茶店の決済方法に電子決済を導入した。生徒は原則電子決済を使用、保護者・中学生来場者等は金券を使用という形で運用した。また、2年生は全クラスが喫茶店または模擬店を担当し、仕入れ先の選定・原価計算・売上見込みなど、実社会に近い学びの機会となった。3年生の劇は例年以上に完成度が高く、観客からの評価も高かった。

#### 2年生修学旅行(沖縄)

昨年度はグアム(海外)であったが、今年度は沖縄を目的地として実施した。修学旅行委員会を組織し、テーマを「MADE BY US(自分たちで作る修学旅行)」と定め、生徒主体で企画を進めた。ビーチオリンピックでは、競技内容・運営・審判等も生徒が事前会議で決定し、当日も主体的に運営を行った。夜のクラスレクリエーションでは、全クラスが出し物を行い、大いに盛り上がった。生徒・教員ともに感動的な時間となった。海外と比較すると、国内旅行は学年全体で行動できる時間が多く、その点でも学年の一体感が高まったとの総括があった。

#### 公式SNSの開設

文化祭終了後の9月末より、学校公式SNSを開設。投稿内容は、コース別授業の様子、クラブ活動、学校行事等が中心である。

現在フォロワーは約750名であり、閲覧者のうち約6割がフォロワー、約4割が非フォロワーと分析されている。今後は、さらに学校の日常や魅力が伝わるよう、投稿内容の拡充を図っていく予定である。

### (3) 経営計画に基づくその他の取組(校長より)

#### 授業力向上・授業研究委員会の活動:

今年度も「授業研究委員会」(有志教員で構成)が中心となり、授業見学の相互実施や指導法の情報交換を促進している。以前は授業の相互見学・意見交換の機会がほとんどなかったが、「5分・10分でもよいので見に行く」という気軽な雰囲気づくりから始め、徐々に定着しつつある。今年度は「パフォーマンス課題」をテーマの一つに掲げ、研修会や事例紹介を通じて授業改善に取り組んでいる。

新採用教員(数学)および経験者研修(10年目)の対象教員については、10月に研究授業と協議を実施。3学期には国語科3年目教員の公開授業・研究協議も予定されている。

#### ICT活用・生成AIに関する情報提供

- ・教員によるICT機器(プロジェクター等)の活用は一定程度進んでいるが、生徒一人一台端末の活用には教員間で差があるのが現状である。
- ・情報担当者が職員会議の中でミニ研修を行ったり、資料を配布する形で生成AIの活用事例等も含めた情報提供を継続している。

#### 人権・生徒理解に関する講演会・研修

2学期は人権教育に関する取組が集中している。

1年生: 拉致問題、労働者の人権に関する学習・講演

2年生: 生徒が選択したテーマ(部落差別、障害者問題、データDV、LGBTQ等)に応じた講演会を実施予定

これらの講演・研修を通じて、多様性理解と他者尊重の態度を育成している。

1年生対象の薬物乱用防止講演会も11月下旬に実施予定であり、

2年生は保健の授業で薬物乱用防止を扱う。

#### 生徒支援・教育相談体制

教育相談・生徒支援担当者による小規模な会議を2週に1回程度開催し、生徒の情報共有や支援方針の検討を行っている。

#### 働き方改革の取組

教頭が毎月、教員の時間外勤務時間を集計しており、月平均の時間外勤務は前年に比べて1人あたり2~3時間程度減少している。一方で、月80時間を超える教員の延べ人数は大きく変わっていないことが課題である。特に、部活動指導や生徒指導に多くの時間を割いている教員に負担が集中している状況がある。生徒指導・部活動は学校の魅力や生徒の成長にとって重要な要素であるため、単に「時間を減らせ」とは言いにくく、バランスをどう取るかが今後の大きな課題である。

### (4) 学校教育自己診断・学校評価について(教頭より)

経営計画における評価指標、および大阪府教育庁が定める必須項目に沿って、

学校教育自己診断の設問項目を見直したことが報告された。保護者・生徒・教員の三者に同様の観点で回答を求め、結果を比較・分析することで、課題の洗い出しをより精度高く行えるようにする。教員向けの設問には、学校組織・校内体制に関する項目も追加し、次年度の学校経営目標・改善方針の設定に活用していく予定である。本年度は、見直し後の設問で自己診断を実施し、その結果を今後の学校評価・経営計画に反映させていく。

委員からの質問・意見等はなく、承認された。

### (5) その他意見交換

SNSによる情報発信に関して、委員より、画像中心の情報発信は反響が早く、他校との比較もされやすいため、学校側にとっても良い刺激・改善のきっかけになる、といった意見があった。

写真が公開されることで職員側も「見られている」という意識が高まり、校内の雰囲気づくりや働き方の見直しに良い影響を与えていたとの紹介もあった。

日時	第3回学校運営協議会は令和8年2月開催予定。日程は後日連絡。
会場	府立豊島高等学校 校長室(予定)